

あにわにわ 通信

創刊号

「あにわにわ」とは、ニュージーランドの
マオリ語で虹を意味しています。

2008.5.20

特定非営利活動法人あい・ぽーとステーション発行

代表理事：大日向 雅美・新澤 誠治

子育てひろば「あい・ぽーと」

住所：107-0062 東京都港区南青山 2-25-1
電話：03-5786-3250 FAX:03-5786-3256
E-mail：info@ai-port.jp
URL：<http://www.ai-port.jp>

全国版子育て・家族支援者養成講座事務局

住所：〒106-0031 東京都港区西麻布 2-24-25-509
電話：03-6657-8539 FAX:03-3499-8539
E-mail：station@ai-port.jp
URL：<http://www.ai-port.jp>

全国の子育て・家族支援者の皆様へ

法人代表理事(恵泉女学園大学教授)
大日向雅美

昨年末、国が策定した『子どもと家族を応援する日本重点戦略』では、総花的に施策を羅列する従来の方式から、「働き方の見直し」と「家庭における子育てを包括的に支援する社会的基盤の構築」の二点に重点を絞り込む施策を打ち出しました。戦略のねらいは子育てや家庭生活を犠牲にすることなく働き続けられる就労環境を整備すると同時に、多様な親の働き方を柔軟にサポートできるように、また地域のすべての子育て家庭が安心して子どもを預けることのできるよう、保育や地域の育児支援の充実に力点が置かれています。

地域の子育て支援の重要性が一層注目を集める時代を迎えたと言えましょう。子育て支援は支援を受ける側も支える側も、人に始まり、人に終わるといっても過言ではなく、支え手となる人を大切に育むという視点が大切です。

二〇〇五年に港区で開始した子育て・家族支

援者養成事業は、その後千代田区・浦安市・札幌市へと展開し、この間、五百名近い支援者の方々が誕生しています。国の施策を何歩も先取りした事業ですが、行政と市民、NPOが力を併せて地域の育児力の向上を目指している全国のモデルともいえる事業です。皆様のお力添えへの感謝を込めて、全国の支援者の方々と夢を分かち合う掛け橋となるニュースレター「あにわにわ」創刊号をお届けいたします。

各自治体の皆様からのメッセージ

港区立子ども家庭支援センター所長
川上真二

子育てひろば「あい・ぽーと」は常に先駆的な子育て支援事業を展開し、区とNPO法人のそれぞれの特性を生かした取り組みとして、全国的にも注目されてきましたが、特に「子育て・家族支援者養成講座」は、他の自治体にも取り組みが広がってきました。

区民の皆さんの子育て経験と子育て支援への意欲を、養成講座を受講することにより、確か

な知識と技術で裏打ちし、地域で活動しやすくするというコンセプトが、港区での活動実績が積み重なることで、「おもしろい」「すばらしい」というだけでなく、他の自治体でも「やってみよう」というふうな受け入れられてきたのだと思います。

「これまで至ったのは、バックアップ講座を含めて支援者の最善をいつも考えていただいているNPO法人あい・ぽーとステーションのみなさんの尽力はもろろんのこと、雨の日も風の日も暑い日も寒い日も、子どもと家族を支援していただいている子育て・家族支援者の皆さんの常日頃の努力があったからこそと感謝しております。

それでも、子育て支援のニーズは一人ひとりその家族によって多種多様です。そのニーズを最前線にいる子育て・家族支援者の皆さんからフィードバックしていただき、今後も「あい・ぽーと」の事業展開に生かし、より子育てしやすいまちづくりをしていきたいと思います。子育て家族支援者の皆様には、今後とも健康に留意され、活躍いただけますようお願い申し上げます。

浦安市子ども部こども家庭課課長
指田裕司

これまで着目はされつつも、着手されなかった少子化対策、平成十五年に成立した次世代育成支援対策推進法を契機として、地域の育児力の向上を図るため、各自治体では子育てを支える人材の育成を重点課題として捉え、様々な子育て支援策が取組まれています。

しかし、人材の養成や育成といった点は、行政の最も苦手な分野であることから、平成十八年度に事業化した子育て・家族支援者養成講座の開催をNPO法人あい・ぽーとステーションに運営委託したところです。

これまで順調に二級、三級講座修了者を輩出し、ファミリーサポート事業や保育園時間外サポーター等として活動しています。

さらに、本年度から二級講座認定者の中から

養成した子育てケアマネジャーによる子育て支援ケアプラン事業に着手するなど、認定者が子育て支援のキーパーソンとして活躍できるような環境を整備しており、こつした取り組みが全国に広がることを期待しています。

千代田区児童家庭支援センター所長
吉野紀子

NPO法人あい・ぽーとステーションの厳しくも充実した子育て・家族支援者養成講座を修了し、認定支援者として活躍中の皆様は、利用者の方々へ代わって心より感謝申し上げます。

千代田区は、在住人口四万五千人という小規模な自治体ですが、「共に生きる」共生をキーワードに、「子どもと親の育ちを地域全体であたたく支えるまちの実現を目指して、子育て施策に力を入れていきます。支援者の皆様には、子育て区民のため、今後ますます力を発揮していただきたいと思います。

前札幌市子ども未来局子育て支援課課長
吉田博

今年、洞爺湖サミットが開催され、まさに環境元年であります。環境を意識することは、これまでの生活全般を見直すことであり、食育、家族のあり方も含めて、子育て支援に大いに関係し、まさに新しいまちづくり、と言つてよいと思います。このような新しい社会を切り開いていくためには、それを推進する人材が必要であります。子育て・家族支援者養成講座を受講された皆さんのエネルギーは、まさに社会を変えるパワーが感じられます。

私は、四月一日付けで子育て支援課を離れましたが、支援者をはじめ関係の皆様のご活躍を期待いたしまして、創刊号にあたってのお祝いとさせていただきます。

【港区・講座の受講を終えて】

家族の在り方や人の生き方が多様化しているといわれている今、これからの支援活動で様々な家庭に出会う時、『相手も大事な人生を生きている』という、子育て・家族支援者養成講座で心に残った言葉を胸において、他者理解に努めていきたいと思えます。

そして、最近、夢を持ち、努力を続ける若い夫婦から応援メッセージが届きました。『a part of our community』として頑張ってください。私達も将来、何かの形で活動してみたいです』とありました。

頂いた言葉を大切にしながら、日頃の「あおば」での支援活動を支えて下さる周りの方々に感謝して、これからも自分でできる支援活動を続けていこうと思っています。

安藤 幸子(三級Ⅳ期・二級Ⅳ期認定)

三級講座受講では、学びことの楽しさが蘇り、二級へと進みのめり込んでゆく自分は、自分ではないような思いました。

振り返ると、娘が一人前になるまでの三十年間は、子育て・仕事(美容・理容)・経営・夫・お客様など、がんじがらめの毎日でした。子育てが落ち着いた今、私生活は一変し、認定を授かってからのこの、風の穏やかな事。サポート帰宅後娘からの「今日も優しい目だね」と言う一言が、嬉しい日々です。

大切に、小ちやな可愛い命丸」と、預けてくださる保護者のお気持ちは如何許り(いかばかり)かと、察するにあまりあります。子どもの心の無限大を感じ、私の宝石である心を磨き、生涯

学習を目指す所存で御座います。

影島 幸子(三級Ⅴ期・二級Ⅳ期認定)

五ヶ月にわたって続いた講座の日々をふり返りますと、充実という言葉では表現しきれないたくさんの方が幾層にもなつて、今の私を支えてくれていることに気づきます。三級と二級の講座を終えた今も、たくさん仲間からのバックアップに支えられています。それになによりも、「ほら、お兄ちゃんだよ」というお母さんの声と、私をみつめて走ってくる子どもの笑顔が、私を支えてくれます。

お兄ちゃんとはばれる年齢はきつと過ぎてしまいました。でも私はこれからお会いできる親子の、図々しくも身近なお兄ちゃんでありたいと思えます。

原口 伸明(三級Ⅴ期・二級Ⅳ期認定)



港区 子育て・家族支援者養成講座2級Ⅳ期認定式
武井雅昭港区長にもご臨席頂きました。

【浦安市・

ケアマネジャー認定式】

浦安市に、行政・市民・NPOの三者協働のもと、全国でもモデルケースとなる、市民の子育て支援のための「子育てケアマネジャー」が始めて誕生しました。

雪の降る二月の始めに第一回目の講義が始まりました。一カ月間の集中講座で、浦安市の現状を踏まえ地域の子育てをあらゆる角度から支援できるよう、市内の子育て関連施設、医療機関等地域情報に始まり、個人情報保護まで色々と学び、最終日は個人及び集団面接と、きめの細かい内容でした。このような厳しい講義に全て出席し、最終面接に通った方々の晴れの認定式が三月十九日に執り行われました。会場は市長公室。認定式の前にはコーヒーとケーキでなごやかな懇談会が開かれました。当日は、お一人お一人の認定者に松崎市長自ら認定証を読み上げ、大日向代表理事と二人で手渡すと言う心こもった温かい認定式となりました。松崎市長からは、これから活躍なさる認定者の皆様へ、「これが終わりではなくスタートである。現場の中からの様々な声を行政にぶつけていたほしい」とのエールを頂きました。懇談会では、大塚とも部長から、「この仕事は想像を超えて辛いこともある一方、楽しいこと、感動することがあると思われれるが、常に市と一緒にやっていく事業である」とのお言葉を頂きました。認定者は以下の五名の方々です。市長のお子さんと同じクラスに御自分のお子さんもいらしたという熱田雅美さん、市長選の時に松崎市長が語った公約「子育てケアマネを作りたい」のこぼに、自分なれたらと夢を抱き、それが現実になって

嬉しいと話された原田まどかさん、御自分にとって導かれた仕事かもしれないと語った加藤多津子さん、これから何をやらたら良いのか、真剣に取り組みたいとの梶川由美子さん、そしてこの仕事を重要な仕事と認識し浦安市が子育てしやすい町だと思われれるようにしたいとおっしゃる清水ゆり子さんです。皆様の今後の御活躍をあい・ぽーと事務局一同心よりお祈りしております。



認定者の皆さんとの記念撮影



認定証授与の様子

【千代田区・第十一回バックアップ研修】

三月十四日、西神田児童センターにて、第十一回バックアップ研修が行われました。テーマは「千代田区児童館の館長と支援者の交流会」と「食育について」の二つ。三級支援者Ⅰ期生、Ⅱ期生あわせて十四名が参加されました。

交流会には、児童・家庭支援センターから吉野紀子センター長と新治博子育て支援係長、神田児童館の関本健二館長（現在は、新井玉江館長）、富士見児童館の鈴木利一館長、一番町児童館の大橋和子館長、四番町児童館の川野紀代江館長、西神田児童センターの高橋藤枝係長が出席され、法人からは大日向代表理事も出席いたしました。始めに吉野センター長から「この交流会により支援者の皆様と児童館長とで、意思疎通がよりいっそう深まることを期待しております。」との挨拶があり、続いて各館長から支援者の活動内容について紹介いただきました。「学童クラブの補助としておやつ準備から片付け、食事中の見守り、一時（いつと）預かり保育の補助も助かっています（神田児童館）」「一時保育では二人から三人の子どもを同時に見ていただいております。学童クラブのおやつ業務や一般来館者の見守りなども手伝っていただいております。（富士見児童館）」「一時保育をお願いしていて、お子様も支援者の方をよく覚えてくれる様子です。キャンセルがあった場合は他の業務をお願いすることもあります。（一番町児童館）」「一時保育がないので依頼する機会がありませんでしたが、今後学童クラブの補助等をお願いしたい（四番町児童館、実際、四月から二名の支援者が活動）」「一時保育のお

手伝いをお願いしたいと思えます（西神田児童センター）」とのこと。支援者の方々からは、「始めたばかりで慣れないが楽しく活動しています」「児童館の職員の方々は非常に大変だと思いましたが「子どもとのコミュニケーションのとり方が難しいが楽しく学びながら活動しています」などの報告や、児童館で活動されていない方から「今自分の子どもを『いつと』に預けてこの研修に参加しています。おかげでいろいろ行動することができ助かっています」「幅広い年齢層の子どもたちと接してみたいので、児童館で活動したい」などの感想もありました。最後に新治係長から、「皆様の意見により、児童館でも新しい視点で子どもたちの成長を見守ることができると思っていますので、今後でもできるだけこのような相互交流の機会が持た



児童館の館長と支援者の交流会



まちなデザイン代表 近藤恵津子氏

ら……」とお話がありました。交流会に引き続き、近藤恵津子氏（NPO法人コミュニケーション・まちデザイン理事長）に「食育について」の研修を行っていただきました。日本の食料事情について、フードマイレージやバーチャルウォーターといった考え方を中心に、グループワークを交えながら楽しく学びました。「食育」とは日本人にとって重要な関心事のひとつですが、具体的に知らない事実も多く、とても

興味深い内容に支援者の方々も真剣に学んでいる様子でした。

【千代田区・二級養成講座開講】

千代田区子育て・家族支援者二級養成講座が、五月十二日に開講しました。千代田区の二級講座は、自宅や希望家庭等での一時保育、病後児・新生児保育、お泊り保育ができる人材を養成するものです。十日間の講義と施設見学が予定されており、七月十四日に千代田区二級支援者第Ⅰ期生が誕生する予定です。

【札幌市・二級支援者誕生】

札幌市子育て・家族支援者養成講座（二級）第Ⅰ期が、二月二十二日から三月十六日まで開講されました。のべ十一日間に三十コマの講義と施設見学が行われ、全講義と施設見学を修了した認定者十八名と準認定者七名が誕生しました。また、残念ながら認定にいたらなかった受講生の方も、積極的に講義に参加していたが、他の方への励ましとなっていました。

最終講義日となった三月十六日には、大日向雅美代表理事と汐見稔幸理事による対談形式のフォーラム「子育て支援を考えよう」が行われ、受講生のほか、子育て支援に関心のある方、子育て中の親など約七十名に参加していただきました。札幌市の子育てへの関心の高さが伺えるひとときでした。

最後に閉講式が行われ、受講生の皆様の晴々としたお顔が並びました。吉田課長から、「本日二級講座の受講を修了されたこと、お慶び申し上げます。一ヶ月の集中的な講義たいへんだったと思いますが、最先端の子育て支援の実践例を学んでいただきました。是非、習得されたものを

札幌市において活用していただきたい。市としても環境づくりに努めたい。」とエールをいただきました。汐見理事から「子育て支援は日本の二十一世紀の最も大事なインフラストラクチャーになっていく。我々がその本流であることに確信をもっている。パイオニアとしての困難は多いと思うが頑張つて乗りきっていただきたい」。大日向代表理事から「講座の最後を迎えた今日、行政とNPOと市民とによるコラボレーションで未来を担う子どもたちを支えていく『子育て・家族支援』が、今後とも実りある展開をしていくことを願っています。札幌市の方々の協力や、なにより熱い思いで一緒に走ってくださいる支援者の方々に心から感謝申し上げます。皆様の益々の活躍をお祈りします。」と挨拶。

支援者の方々から、「三級から二級へステップアップできうれしく思います。みんな頑張りますのでよろしく願います。」「素敵な学びの場をいただきありがとうございます。」と両先生に花束が贈られ、閉会となりました。

札幌市の二級支援者は、地域主体の子育てサロンなど地域子育て支援事業のリーダーとして活躍が期待されております。



汐見理事と大日向代表理事の対談



～講座講師の先生方からのメッセージ～

私は、「子育て・家族支援の養成講座」に関わらせていただきながら、いつも感じてきたことは、地域社会の中には、やさしさや賢さを秘めている素敵な人たちが沢山いるのだと実感してきました。子どもが育ちにくい社会になり、育児困難感や不安をもつ母親が増えています。こうした子どもや親の声に耳を傾け、温かな笑顔を向け、知恵と手をさしだしていただけたらと心から願っています。

法人代表理事 新澤 誠治

子育て・家族支援者養成講座の1コマを担当させていただいています。参加者の皆さんの活発な姿に触れるのが毎回の楽しみです。手を貸してくれる人が周囲にたくさんいると知ること、現代家族の子育てはさらに豊かで楽しいものとなっているの違いありません。

東京大学大学院准教授 中釜 洋子

多くの親は、わが子をよりよく育てたいと願っています。しかし、地域では孤立し、様々な情報に振りまわされて不安に陥ったり、思いどおりにはいかない現実と直面して押しつぶされそうになったりする人が増えています。その結果、時には悲劇的な結果を迎える場合もあります。そうした状況を打開するために、今ほど子育て・家族支援者の活躍が期待されているときはないと思います。

子どもと保育総合研究所代表 森上 史朗

国際比較すると日本は「子育てしにくい国」です。貧困化と格差拡大が進行し、子育てもまだまだ母親一人の負担は重い。「這えば立て、立てば寝てよの親心」という川柳があるそうです。未来に向かって成長する子どもたちをみんなで育てる社会づくりに力を合わせましょう。

駒沢女子短期大学教授 福川 須美

子どもが事件を起こすとすぐ「うちの子もやるのでは？」という不安の声が届きます。被害者になることより加害者になるのでは？と、子どもを信じられない親が多くなっているようです。冷静に、現実を見て、子どもと生きていけば大丈夫です。共に考えましょう。

教育ジャーナリスト 青木 悦

子どもをAKU(悪)と言ってくれた友人がいます。A=危ない・K=汚い・U=うるさいのが子どもだと。AKU で結構。AKUこそ素晴らしい。私はそう思います。私たちの“過去”であり“未来”である子ども。どうか子どもと共に生きる皆さんの“^{いま}現在”が、素敵でありますように！

大妻女子大学准教授 岡 健

江戸時代に日本を訪れたヨーロッパ人は、日本社会の子育ての底力に感動しました。少子化やコミュニティの弱体化で子育ての危機が叫ばれていますが、文化・歴史の中に根付いた子育ての社会力は皆さんの中に息づいています。社会はそうした皆さんの底力に期待しています。

お茶の水女子大学教授 榎原 洋一

いよいよ国民総子育て支援利用可能時代が始まります。子どもを社会の総力を挙げて育てていく環境をつくらないと、もう日本の未来はないと国も考え始めたのだと思います。子育て支援が、点としてではなく、面として、どこでも多様に展開され、支援が仕事として成り立つ時代はもうすぐです。しかし、そうなればなるほど、支援者の専門性が問われます。細やかな配慮ができる支援か否か、その蓄積は、きっと日本の将来の人材の質にも影響していくでしょう。あい・ぽーとステーションの真価が問われる時代です。

養成講座全国版世話人代表・白梅学園大学学長 汐見 稔幸

「北国の稲はいかにや梅雨寒し」は福井における障害児運動の草分けである青木さんの句ですが、わたしにとっては忘れられない句です。子育て支援が、支援するほうもされるほうも共にあたたかさを感じられるものであって欲しいと思います。

東京女子医科大学教授 小西 行郎

私は、子どもたちの大好きな絵本を、講座に通われる方々にご紹介していますが、子どものように食い入る目で絵本に向かうみなさんに、いつも圧倒されながらも、感動してしまいます。“子どものような目”を持つ大人に育てられる子たちは、幸せですから。

青山学院女子短期大学 非常勤講師 中村 亜子

「社会の皆で子どもを育てる」という意識を強く持って、日頃から真摯に活動をされている皆様の姿に触れる度、いつも頭が下がる思いです。子ども達の幸せのために、これからもその家族の気持ちに寄り添いながら、子育てをしていってくださることを願います。

和泉短期大学専任講師 伊藤 美佳

子どもが小さいうち、親は誰でも孤立して不安でいっぱいです。そんな時うなずきながら話を聴いてくれるあなた、一緒に悩んでくれるあなたが寄り添ってしてくれるだけで、力がわいてくる親もたくさんいます。そしてあなたも親子から力をもらえます。

社会福祉法人 子どもの虐待防止センター 専任相談員 龍野 陽子

人間の子育ては、本来地域の皆が助け合って行われるものです。そうしながら子ども達も、いろんな人との出会いの経験を積むのです。それがまた、大人を育てることにもなるわけで、そういう大人と子どもの共生関係をどうか大切にしていって下さい。

早稲田大学教授 根ヶ山 光一

いつおうかがいしても、
あたたかいお茶と、食べ物、
そして微笑みで迎えてくださる、あい・ぽーとさん。
そんな場所を、いつの日かかならず、
私もつくりたいと思っています。
全国のみなさんに習いつつ、
全国のみなさんと学びつつ。

NPO法人市民活動センター・ハンズオン埼玉副代表理事 西川 正



これからもよろしくお願ひ致します！